

第84回 簿記実務検定第 1 級試験問題 会 計 (制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	不 渡 手 形
売 買 目 的 有 価 証 券	建 物	備 品	備 品 減 価 償 却 累 計 額
鉱 業 権	満 期 保 有 目 的 債 券	支 払 手 形	保 証 債 務
社 債	資 本 金	資 本 準 備 金	利 益 準 備 金
売 上	有 価 証 券 利 息	保 証 債 務 取 崩 益	固 定 資 産 売 却 益
仕 入	鉱 業 権 償 却	修 繕 費	支 払 利 息
社 債 利 息	創 立 費	株 式 交 付 費	固 定 資 産 売 却 損
固 定 資 産 除 却 損	割 賦 売 掛 金	割 賦 仮 売 上	

- a. 売買目的で額面 ¥4,500,000 の社債を額面 ¥100 につき ¥98.40 で買い入れ、代金は買入手数料 ¥7,000 および端数利息 ¥18,000 とともに小切手 ¥4,453,000 を振り出して支払った。
- b. 佐賀商事株式会社は、売価 ¥2,844,000 の商品を36回の均等分割払いの契約で販売した。ただし、収益の計上は回収基準により、商品を販売したときに、売価の総額を対照勘定を用いて処理している。
- c. かねて、商品代金として福岡商店に裏書譲渡していた北東商店振り出しの約束手形が期日に不渡りとなり、償還請求を受けた。よって、手形金額 ¥400,000 および期日以後の利息 ¥1,000 をともに小切手を振り出して支払い、同時に北東商店に支払請求をおこなった。なお、この手形を裏書きしたさいに手形額面金額の/%の保証債務を計上している。
- d. 大分商事株式会社は建物の改良と修繕をおこない、その代金 ¥6,700,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、代金のうち ¥5,300,000 は資本的支出とした。
- e. 長崎鉱業株式会社(決算年/回 3月3/日)は、決算にあたり、生産高比例法を用いて鉱業権を償却した。なお、この鉱業権は当期の10月/日に ¥135,000,000 で取得し、当期に9,000トンの採掘量があった。ただし、この鉱区の推定埋蔵量は300,000トンであり、鉱業権の残存価額は零(0)である。
- f. 熊本商事株式会社は、事業規模拡大のため、株式500株を1株につき ¥110,000 で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、この株式の発行に要した諸費用 ¥740,000 は小切手を振り出して支払った。
- g. 宮崎商事株式会社(決算年/回)は、取得原価 ¥3,640,000 の備品を第29期初頭に除却し、廃棄処分した。ただし、この備品は、第23期初頭に買い入れたもので、定額法により、残存価額は零(0)耐用年数は8年として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この備品の評価額は零(0)である。

2

次の各問いに答えなさい。

(1) 同種企業である南北株式会社と東西株式会社の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

① 次の文の のなかに適当な比率を記入しなさい。また、{ } のなかから、いずれか適当な語を選び、その番号を記入しなさい。

a. 流動比率は、南北株式会社は ア % であり、東西株式会社は 180% である。よって、流動比率によれば、南北株式会社は東西株式会社に比べて短期的な支払能力は イ。{1. 高い 2. 低い} ことがわかる。

b. 前期の売上高と当期の売上高を比べて売上高成長率（増収率）を求めると、南北株式会社の5%に対して、東西株式会社は ウ % となる。よって、売上高成長率（増収率）は エ。{1. 南北株式会社 2. 東西株式会社} が良いことがわかる。

c. 売上債権の期首と期末の平均を用いて計算した受取勘定回転率は、南北株式会社の25回に対して、東西株式会社は オ 回である。よって、売上債権の回収は東西株式会社の方が、南北株式会社よりもカ。{1. 早い 2. 遅い} ことがわかる。

② 次の金額を求めなさい。

a. 南北株式会社の投資有価証券勘定（キの金額）

b. 東西株式会社の有形固定資産の合計額

南北株式会社の資料

i 第8期の貸借対照表

貸借対照表			
南北株式会社		平成29年3月31日	
資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金	394,000	支払手形	780,000
受取手形	520,000	買掛金	850,000
売掛金	406,000	未払法人税等	170,000
有価証券	1,200,000	社債	565,000
商品	1,004,000	長期借入金	340,000
前払費用	76,000	退職給付引当金	295,000
備品	965,000	資本金	4,000,000
土地	1,820,000	資本準備金	375,000
投資有価証券	(キ)	利益準備金	()
長期貸付金	1,100,000	繰越利益剰余金	430,000
	()		()

ii 第7期の損益計算書に関する金額（一部）
売上高 ￥22,500,000

iii 第8期の損益計算書に関する金額（一部）
売上高 ￥23,625,000
売上原価 ￥17,820,000
(商品評価損と棚卸減耗費はなかった)
当期純利益 ￥300,000

iv 第8期の財務比率
自己資本利益率 6%
(期末の自己資本による)
固定比率 88%
負債比率 60%

v その他
期首の売上債権 ￥964,000

東西株式会社の資料

i 第8期の貸借対照表

貸借対照表			
東西株式会社		平成29年3月31日	
資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金	230,000	支払手形	947,000
受取手形	632,000	買掛金	893,000
売掛金	818,000	未払法人税等	260,000
有価証券	1,050,000	社債	685,000
商品	()	長期借入金	()
前払費用	65,000	退職給付引当金	325,000
備品	850,000	資本金	3,200,000
土地	()	資本準備金	415,000
投資有価証券	385,000	利益準備金	()
長期貸付金	1,175,000	繰越利益剰余金	510,000
	7,650,000		7,650,000

ii 第7期の損益計算書に関する金額（一部）
売上高 ￥25,000,000

iii 第8期の損益計算書に関する金額（一部）
売上高 ￥28,500,000
期首商品棚卸高 ￥915,000
売上総利益 ￥6,650,000
(商品評価損と棚卸減耗費はなかった)
当期純利益 ￥425,000

iv 第8期の財務比率
自己資本利益率 10%
(期末の自己資本による)
負債比率 80%
商品回転率 23回
(期首と期末の商品有価の平均と売上原価による)

v その他
期首の売上債権 ￥1,400,000

(2) 次の資料から、売価還元法によって期末商品棚卸高（原価）を求めなさい。

資 料

	原 価	売 価
i 期首商品棚卸高	¥ 9,512,000	¥ 13,120,000
ii 当期純仕入高	35,424,000	52,480,000
iii 期末商品棚卸高	<input type="text"/>	11,800,000

(3) 鹿児島商事株式会社は、平成28年3月31日に南西商事株式会社の発行する株式の80%を352,000千円で取得し支配した。よって、次の資料により、連結第1年度末の連結貸借対照表に計上する非支配株主持分の金額を求めなさい。

資 料

- i 支配獲得日における南西商事株式会社の、貸借対照表の資産合計は468,000千円、負債合計は68,000千円、資本金280,000千円、資本剰余金38,000千円、利益剰余金82,000千円であった。ただし、資産と負債の時価は帳簿価額と等しいものとする。
- ii 南西商事株式会社が当期に計上した純利益は50,000千円である。
- iii 当期中に南西商事株式会社が支払った配当金は45,000千円であった。
- iv 当期中に鹿児島商事株式会社と南西商事株式会社相互間の債権・債務の取引はなかった。
- v 当期中に鹿児島商事株式会社と南西商事株式会社相互間で売買された資産はなかった。

3

次の各文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

- a. 財務諸表を作成するにあたり、科目の配列の順序や金額の表示方法に一定の基準を設けたり、重要な会計方針を注記することは、利害関係者にわかりやすく企業の情報を伝えるためである。これは、 ア の原則によるものである。これによると、売掛金 ¥500,000 と イ ¥200,000 を相殺して売掛金 ¥300,000 として表示することは認められない。
- b. 自己株式を取得するために要した費用は取得原価に含めない。よって、この費用は損益計算書に ウ として処理する。また、期末に自己株式を保有している場合は、貸借対照表の エ の末尾に控除する形式で表示することになる。

- | | | | |
|--------------|---------------|------------------------|------------|
| 1. 単 一 性 | 2. 未 収 金 | 3. 明 瞭 性 | 4. 株 主 資 本 |
| 5. 買 掛 金 | 6. 固 定 資 産 | 7. 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | 8. 流 動 資 産 |
| 9. 正 規 の 簿 記 | 10. 営 業 外 費 用 | | |

4 香川商事株式会社の総勘定元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項によって、

- (1) 報告式の損益計算書を完成しなさい。
- (2) 報告式の貸借対照表（資産の部）を完成しなさい。
 ただし、i 会社計算規則によること。
 ii 会計期間は平成28年4月/日から平成29年3月3/日までとする。

元帳勘定残高

現金	¥ 489,000	当座預金	¥ 3,632,000	受取手形	¥ 3,500,000
売掛金	2,600,000	貸倒引当金	8,000	売買目的有価証券	2,700,000
繰越商品	2,330,000	仮払金	3,000,000	仮払法人税等	670,000
備品	3,600,000	備品減価償却累計額	720,000	土地	4,148,000
その他有価証券	4,020,000	支払手形	1,370,000	買掛金	1,061,000
長期借入金	2,200,000	退職給付引当金	1,035,000	資本金	13,000,000
資本準備金	1,300,000	利益準備金	720,000	別途積立金	545,000
繰越利益剰余金	382,000	売上	74,686,000	受取配当金	160,000
仕入	49,230,000	給料	8,196,000	発送費	2,293,000
広告料	2,320,000	支払家賃	3,456,000	保険料	364,000
租税公課	203,000	雑費	169,000	支払利息	27,000
固定資産売却損	240,000				

付記事項

- ① 徳島商店に対する売掛金 ¥200,000 を期日前に受け取り、契約によって割引をおこない、割引額を差し引いた金額を同店振り出しの小切手 ¥198,000 で受け取っていたが、未記帳であった。
- ② 仮払金 ¥3,000,000 は、建設中の本社ビルに対する建設代金の一部である。なお、この建物はまだ完成していない。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 帳簿棚卸数量 650個 原 価 @¥3,800
 実地棚卸数量 620〃 正味売却価額 〃〃3,650
 ただし、棚卸減耗費および商品評価損は売上原価の内訳項目とする。
- b. 貸倒見積高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ/%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 有価証券評価高 保有する株式は次のとおりであり、時価によって評価する。

	銘柄	株数	/株の帳簿価額	/株の時価
売買目的有価証券	東南商事株式会社	50株	¥54,000	¥62,000
その他有価証券	西北商事株式会社	120株	¥33,500	¥34,000

- d. 備品減価償却高 定率法により、毎期の償却率を20%とする。
- e. 保険料前払高 保険料のうち ¥276,000 は、平成28年8月/日から/年分の保険料として支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- f. 利息未払高 ¥ 9,000
- g. 退職給付引当金繰入額 ¥ 470,000
- h. 法人税・住民税及び事業税額 ¥2,130,000

第84回 簿記実務検定 1級 会計 [答案用紙]

1	借	方	貸	方
	a			
	b			
	c			
	d			
	e			
	f			
	g			

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

①

a		b		c	
ア	イ	ウ	エ	オ	カ
	%		%		回

②

a	南北株式会社の投資有価証券勘定（キの金額）	¥
b	東西株式会社の有形固定資産の合計額	¥

(2)

期末商品棚卸高（原価）	¥
-------------	---

(3)

非支配株主持分	千円
---------	----

3

ア	イ	ウ	エ

2	
得点	

3	
得点	

4

(1)

損益計算書

香川商事株式会社 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで (単位:円)

I 売上高	()	
II 売上原価			
1. 期首商品棚卸高		2,330,000	
2. 当期商品仕入高	()	
合計	()	
3. 期末商品棚卸高	()	
	()	
4. ()	()	
5. ()	()	()
売上総利益	()	()
III 販売費及び一般管理費			
1. 給料		8,196,000	
2. 発送費		2,293,000	
3. 広告料		2,320,000	
4. ()	()	
5. ()	()	
6. ()	()	
7. 支払家賃		3,456,000	
8. 保険料	()	
9. 租税公課		203,000	
10. ()	()	()
営業利益	()	()
IV 営業外収益			
1. 受取配当金		160,000	
2. ()	()	()
V 営業外費用			
1. 支払利息	()	
2. ()	()	()
経常利益	()	()
VI 特別損失			
1. 固定資産売却損	()	()
税引前当期純利益	()	()
法人税・住民税及び事業税	()	()
当期純利益	()	()

(2)

香川商事株式会社

貸借対照表

平成29年3月31日

(単位：円)

資産の部

I 流動資産

1. 現金預金		()
2. 受取手形	()	
貸倒引当金	()	(
3. 売掛金	()	
貸倒引当金	()	(
4. 有価証券		()
5. ()	()
6. ()	()

流動資産合計

()

II 固定資産

(1) 有形固定資産

1. 備品	3,600,000		
()	()
2. 土地		4,148,000	
3. ()	()

有形固定資産合計

()

(2) 投資その他の資産

1. 投資有価証券		()
投資その他の資産合計		()

固定資産合計

()

資産合計

()

負債及び純資産合計

29,147,000

4	
得点	

借	方		方	
	借	貸	借	貸
a	売買目的有価証券 有価証券利息	4,435,000 18,000	当座預金	4,453,000
b	割賦売掛金	2,844,000	割賦仮売上	2,844,000
c	不渡手形 保証債務	401,000 4,000	当座預金 保証債務取崩益	401,000 4,000
d	建修費	5,300,000 1,400,000	当座預金	6,700,000
e	鉦業権償却	4,050,000	鉦業権	4,050,000
f	当座預金 株式交付費	55,000,000 740,000	資本金 資本準備金 当座預金	27,500,000 27,500,000 740,000
g	備品減価償却累計額 固定資産除却損	2,730,000 910,000	備品	3,640,000

2

(1) ①

ア	a		b		c	
	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
200	%	1	14	%	2	20
					回	2

(注意) 枠の中が2つとも合っている場合に正答とする。

②

a	南北株式会社の投資有価証券勘定 (キの金額)	¥	515,000
b	東西株式会社の有形固定資産の合計額	¥	2,310,000

(2)

期末商品棚卸高 (原価)	¥	8,083,000
--------------	---	-----------

(3)

非支配株主持分	81,000 千円
---------	-----------

3

ア	イ	ウ	エ
3	5	10	4

(1)

香川商事株式会社		損益計算書		香川商事株式会社	
平成28年4月1日から平成29年3月31日まで		平成28年4月1日から平成29年3月31日まで		平成29年3月31日	
		(単位：円)		(単位：円)	
I	売上高	(74,686,000)		
II	売上原価	(2,330,000		
1.	当期商品棚卸高	(49,230,000)		
2.	期末商品棚卸高	(51,560,000)		
3.	当期商品仕入高	(2,470,000)		
4.	当期商品棚卸高	(49,090,000)		
5.	当期商品棚卸高	(114,000)		
6.	当期商品棚卸高	(93,000)		
III	売上総利益	(49,297,000)		
IV	販売費及び一般管理費	(25,389,000)		
1.	給料		8,196,000		
2.	発送費		2,293,000		
3.	広告費		2,320,000		
4.	(貸倒引当金繰入)	(51,000)		
5.	(減価償却費)	(576,000)		
6.	(退職給付費用)	(470,000)		
7.	支払家賃	(3,456,000)		
8.	保険料	(272,000)		
9.	租税公課	(203,000)		
10.	(雑費)	(169,000)		
V	営業外収益	(18,006,000)		
1.	受取配当金	(7,383,000)		
2.	(有価証券評価益)	(560,000)		
VI	営業外費用	(60,000)		
1.	支払利息	(36,000)		
2.	(売上割引)	(2,000)		
VII	経常利益	(7,905,000)		
VIII	特別損失	(240,000)		
1.	固定資産売却損	(240,000)		
2.	引当金繰入	(7,665,000)		
3.	法人税・住民税及び事業税	(2,130,000)		
4.	当期純利益	(5,535,000)		

(2) 貸借対照表

香川商事株式会社

平成29年3月31日

(単位：円)

資産の部		負債及び純資産合計	
I	流動資産	(15,615,000)
1.	現金預金	(4,319,000)
2.	受取手形	(3,500,000)
3.	貸倒引当金	(35,000)
4.	売掛金	(2,400,000)
5.	貸倒引当金	(24,000)
6.	有価証券	(2,376,000)
7.	(商品)	(3,100,000)
8.	(前払費用)	(2,263,000)
9.	(前払費用)	(92,000)
II	固定資産	(13,532,000)
(1)	有形固定資産	(4,080,000)
1.	備品	(3,600,000)
2.	(減価償却累計額)	(1,296,000)
3.	土地	(2,304,000)
4.	(建設仮勘定)	(4,148,000)
5.	(有形固定資産合計)	(3,000,000)
(2)	投資その他の資産	(9,452,000)
1.	投資有価証券	(4,080,000)
2.	投資その他の資産合計	(4,080,000)
III	固定資産合計	(13,532,000)
IV	資産合計	(29,147,000)
V	負債及び純資産合計	(29,147,000)